

## ▽取組事例名

子どもの育ちを支える連携

## ▽取組期間

平成24年4月～  
(継続中)

## ▽取組概要

幼稚園教諭・保育士・小学校教諭が中心となり、コストをかけずに5歳児健診に代わる独自のものとして「にこにこシート」（発達の様子を確認するチェックリスト）を作成した。行政のバックアップを得て、各関係機関と互いに連携し早期の教育支援ができる体制作りに取り組み、子育てに不安を抱く親が、安心して子どもを育てることができる環境づくりに努めている。

## ▽取組みの背景

少子化核家族化を背景に、子育ての疲労や孤立化により、子育てに不安を感じたり発達のつまずきに気付かなかつたりする保護者が増えている。また集団生活やコミュニケーションに困難のある子どもも目立ち、二次的不適応が心配される。関係機関と連携し、子ども一人一人に応じた支援や安心して過ごせる環境が必要となっている。

## ▽取組みの狙い・具体的内容

## (取組みの狙い)

- 幼児に早期からの支援を実現し、就学後も支援を継続できるように、砥部町独自で5歳児健診に代わるもの「にこにこシート」を作成し実践・活用を行う。
- 育児不安のサポートができるよう、親子で遊ぶ場や相談をしやすい環境を作る。

## (具体的内容)

## 「にこにこシート」の作成と活用

5歳児健診は法制化がされていないため、マンパワーの確保と自治体のコスト負担があり、全国でも実施は少ない。実施している自治体は保健センター主導で保健師と医師により行っている。それらは3歳児健診では気付きにくい発達障害の発見と介入を目的としているが、砥部町では、発達の様子を確認し、幼児の困り感や落ち込みに気付き日々の保育に生かすことを目的として作成した。

幼稚園主任教諭・主任保育士が中心となり、「砥部町特別支援連携協議会」のもと行政と連携して体制づくりを行い、町内の3幼稚園・4保育所で実施した。「にこにこシート」の作成にあたっては、文献を参考に小学校特別支援教育コーディネーターにアドバイスを受けながら会話や動作模倣、協調運動や概念などを中心に検査項目を選び、実施は日々の保育の場で行なった。(H25年度1学期年長児対象 H25年度3学期年中児対象)

実施後、気になるところやシートの読み取り、今後の支援については、同じ地区の小学校コーディネーターから助言を受けている。必要に応じて巡回相談や教育相談につなげる予定である。砥部町教育委員会や役場総務課と協議し、砥部町広報「H25.7月号」「H26.1月号」に掲載して住民への周知を図った。

## 行政と連携した子育て支援

介護福祉課が実施する子育て支援事業の幼稚園・保育所の園庭開放や、NPO法人とベ子育て支援団体(ぽっかぽか)のイベントに参加するなかで、季節の遊びや遊具の提供を行なうことによりスタッフ一同、親子が共に笑顔で楽しむ様子を共感することができた。

幼稚園やNPOの提案により、療育施設を利用する際に必要な申請書の名称「障害児通所支援サービス」において、住民感情を配慮するため、児童福祉法に照らし合わせ「児童通所支援サービス」と名前の変更につなげた結果、障害の有るか無いか分からない時点での申請段階で、住民の不安を少しでも取り除けるものになった。

### ▽取り組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

にこにこシート実施の保護者への周知についていろいろな問題があがった。特別支援連携協議会の研修部と広報部の思いのずれ、関係機関メンバー（NPO法人）「チェック内容を保護者に知らせると家庭で練習して答えを教えるので、存在そのものを知らせない方がよい」との意見があり、調整が難航した。保護者に不安を感じさせない方法を検討した。

### ☆工夫した点

○早期発見、早期支援の必要性を訴えるため、幼稚園教諭・保育士・小学校教諭が一丸となり、町特別支援教育連携協議会で提案し、行政に制度面からのサポートを要請すると共に、研修部・幼児部・広報部それぞれの部会に協力を依頼した。  
○先行して年長児の3学期に「にこにこシート」を実施することにより、チェック項目や判断基準の問題点が把握でき、シートや手引きの修正につなげた。

### ▽取り組みの効果

○「にこにこシート」の実践により、幼児一人一人の発達の様子を確認することができた。課題点については、保育の中で必要な配慮や支援を行うと共に、家庭にも気を付けたら良いことやどんな経験を増やせば良いかを伝えることができた。  
○保健センターで行う3歳半健診後のフォロー（発達検査）と「にこにこシート」で、類似の検査項目で異なる結果となり、検査環境の違いが影響する可能性もあり、幼児を多方面から把握できた。  
○「にこにこシート」制作過程で幼稚園・保育所・小学校の教師の連携が深まり、幼児を見る視点の精度をあげるなどスキルアップにつながった。  
○幼稚園の提案が行政に生かされ、他機関との連携も進み、子育て支援の幅が広がった。

### ▽住民（職員）の反応・評価

○「にこにこシート」の結果から、幼児に不足している経験が分かり、クラス担任が保育の幅を広げることができたという意見が各園からあがった。  
○役場職員から「幼稚園の先生は子どもを遊ばせるだけかと思っていたら、いろんなことをしている。頑張ってもらいたい」という声が聞かれた。

### ☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

「にこにこシート」は完成しているわけではないので、専門家の意見を聞きながら検討や手直しを行っていく。実施後の活用が最も大切であると考え、問診項目の精度を上げることだけに視点を置かず、配慮が必要と判断された幼児についてのサポートを行っていく。保護者への問題提起の仕方を検討しながら保護者の気づきを促し、支援につなげていく。また「にこにこシート」の結果を個別の指導計画に取り入れることで、小学校入学後も支援を継続できるようにする。

### ☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

「にこにこシート」をより充実したものとし、年中組3学期での実施を定着させ、サポート体制づくりを各関係機関共同で進めていく。砥部町には個別の療育指導や保護者の相談の場となる機関がないので、「子ども発達支援センター」的な機関の設置、もしくは専門知識と経験を兼ね備えた相談員の配置に向けて行政と連携しながら取り組んでいきたい。

子育て支援には担当課と保健センターが中心となるところが多いが、そこに幼稚園・保育所も積極的に活用してほしい。組織の枠を超えた関係づくりが大切である。「地域の子どもを一緒に育てていきたい」という情熱で行政や地域に発信することにより、応援者を増やしていきたい。